

一雪山縦走一

白岩山雲取山

標高 1,921m
2,017m

山行実施日

2016年1月
29日夜発 30
～31日
メンバー
MS(L)、H
竜(SL)、I村
U村、O川、
GK、K坂
K池、S田と
H川、Y城
他会1名

放射線量

測定地点①山頂
値 _____
測定地点②1,500m
値 _____
計器 _____

埼玉県側三峰神社からの雪山縦走

である。12人のメンバーが3パー
ティーに分かれて白岩山、雲取山を
目指した。前日夜テント泊した大滝
道の駅は屋根付きの駐車場と暖かい
トイレ付きである。しかし、天候は
曇から雪に変わろうとしている。朝
起きたときすぐ積雪を確認した。
「ラッキー、曇りがちだが、雪は
降っていない」朝食後、装備の分担
をして三峰神社駐車場に出発する。
GKさんはこの日のために、チェ



大宮労山50の山白岩山で

ーンを購入して準備して下さった。

奥宮入り口で登山届を提出。精銳
ぞろいの先発隊の後をゆっくり進む。
先発隊が歩いた後に足を入れるが、
少しでもそれるとスポツと靴が沈み
歩きにくい。なだらかな登りを無言
で必死に登る。やっとな炭焼き平に到
着。寝不足とリーダーという名称の
重圧で元気が出ない。

地蔵峠を過ぎ、霧藻が峰では西側
に展望が開け、でーんとしている和
名倉山、ギザギザの両神山が見える。
素晴らしい展望で少しエネルギーが
湧いてきた。しかし、ここから前白
岩山まで急登が続く。重い雪靴、1
2本アイゼンがさらに重さを増す。
アイゼン歩行は安心だが、重さに負
けそうである。「一歩一歩雪を踏みし
めて歩けばいつか山頂に近づくよ」
と自分を励ましながら白岩小屋に到
着する。中では先発隊が先に休憩し
ている。小屋は現在使われておらず、
布団などがそのまま朽ちかけてい

る。物悲しい雰囲気である。

先発隊リーダーのH川さんは後発
隊の皆さんのペースを心配して顔を
見てから出発するという。全体リー
ダーとして私が配慮しなければなら
ないのに申し訳ない。

後発隊が小屋に着く前に私達ほの
ぼの隊は出発する。小屋からも登り
が続き白岩山に到着する。山頂は尾
根から少し西側に入る。私の今日の
目的の山に着き、ほっと一安心。嬉
しさがこみ上げてくる。笑顔で記
念の写真を撮ってもらおう。
ここからは芋の木ドッケの巻道で
ある。雲取山に行く前に2,3人の
方に「ここが凍っていたら危険だよ」
とアドヴァイスを頂いた下り、慎重
に一歩一歩降りてゆく。ここまでア
イゼン無しで歩いてきたK坂さんも
チェーンアイゼンを装着する。稜線
に登りやっとな雲取山荘に到着する。
今日の行程は雲取山まで行く予定だ
ったが、時間も16時を過ぎてい

のでテント泊の準備をする。私達小
屋組は荷物を部屋に置き、ちよこつ
と炬燵に入ってみる。GKさんお勧
めの豆炭炬燵が暖かい。部屋は暖房
が無いので、夜は炬燵を囲んで寝る
のである。テントに12人のメンバ

ーが入って夕食を取る。食担のK池
さんのアイデアで煮ながら食べるこ
とができる『水炊き』が美味しい。
鶏肉、豚肉、白菜、きのこ類、豆腐
(チューブ入り)、トッポギ、ネギ。
ぼんずダレとごまダレでいただく。
肉を取りすぎたメンバーがお叱りを
受れたり、あまりにも狭いので足が
つりそうになったり、笑いが絶えな
い。翌朝、元気なメンバーは雲取山
にご来光を見に行き、朝食後快調に
三峰神社まで下山し、50の山、二
山の登攀を終了した。

報告者：MS

コースタイム

30日：三峰神社 8:00発—霧藻が
峰 10:18—前白岩の肩 11:15—前白
岩山 12:24—白岩山 13:54—雲取山
荘着 16:30

31日：雲取山荘 6:00発—雲取山
雲取山荘 8:45発—三峰神社 14:15着